

その時代にいるかのような錯覚を味わう

…厳しい安全保障環境の今だからこそ観る価値がある…

川又 弘道 陸自81

3月のとある日、知人の招待で「Kiss Me You.. がんばったシンプー達へ…」という演劇をキンケロ劇場で鑑賞した。この演劇は神風(シンプー)特攻隊員として散っていった若き将兵達の、出撃するまでの葛藤と彼らを見送った家族や恋人、そして街の人々の想いを、実際に彼らが残していった遺書や手紙などをもとにした藤森一朗氏の脚本・演出で再現されたものだ。

特攻の記録映像や特攻を扱った映画をこれまで何本も観てきたが、目の前の舞台上で生身の人間が演じることで、その時代に自分もいると錯覚するほどリアルに迫ってくるものがあつた。私には、特攻のように必死の任務ではないが、国連平和維持活動で部隊・隊員を率いた経験がある。舞台を観ていて、出国の際にこれから任務へ赴くとの強い決意の表情を見せる隊員と、搭乗口へ消えていく隊員の背中に向けられた家族の眼差しに重なるものを感じた。

観劇の後、藤森氏、主演の東てる美さんなどの舞台関係者と懇親を深める

機会を得た。聞けば「Kiss Me You」は初演から今年で16年になり、また同じ特攻を扱った舞台劇「MOTHER.. 特攻の母 鳥濱トメ物語:」も2009年から大林素子さんの主演で毎年公演しているそうだ。藤森氏に二つの舞台劇を始めた思いを聞いたところ、「今の平和な日本がどうやって作られたのか、現代に生きる若者は無関心というか知らなさすぎる。そこで戦後70年に向けて特攻という事実を広く後世に伝えるために立ち上げた」とのこと。

そこで藤森氏にお願ひし「MOTHER」のDVDを送っていただき鑑賞した。舞台観劇とは違い役者たちの息遣いは感じられないものの、内容的には「Kiss Me You」と同様に胸打たれるものだった。送られたDVDに公演を観劇した一般の方の感想が添えられていたので一部紹介する。それを読めばこの演劇の主訴が理解できると思う。是非、多くの方に観劇してもらいたい。

「MOTHER」の次回公演は今年の秋に東京と東北であるとのことなので、私も出向いて役者の息遣いを感じる舞台を観劇するつもりだ。

●世の中が少しでも良い方向に進むようにという隊員の方々の願いを、そのバトンを引き継ぐのは、同じ感性を持つ、未来を創造する力を持つ若者達に

ほかなりません(高校3年生保護者)  
●この事実の上に私たちが生きていること、絶やさず伝えていかなければならないと思う(大学3年生/女子)

●この劇を観たことよって私の人生観が変わりました。この劇を沢山の人の観てほしいと思います。彼等の勇気を無駄にしないよう毎日を大切に生きたいと思います(高校1年生/女子)  
●今の原発問題やその他の外交問題がある世の中とある意味同じなのではないかと思った(高校2年生/女子)

●特攻隊員たちは皆愚息と同じ年齢の子供達。彼等の家族の為、そして後世の為に自分達の命を差し出すことを恐れない、という気持ちに圧倒された(高校3年生/保護者)

#### 「MOTHER」公演予定

東京公演

9月13日(木)〜9月17日(月祝)

於:東京クロップ座

宮城県仙台市公演

11月10日(土)・11日(日)

於:日立システムズホール仙台

福島県福島市公演

11月14日(水)

於:福島テルサ FTホール

福島県会津若松市公演

11月17日(土) 於:会津若松市文化センター 文化ホール